

上越市立高志小学校学校だより No.1529

令和2年度 No.10

令和2年11月24日

六花の輝き

＜教育目標＞

喜んで登校し、
生き生きと学ぶ子ども

〒943-0805 上越市木田3-1-25

TEL 025-523-3858 FAX 025-525-7188

E-mail takashi@jorne.or.jp

多くの眼で… まずは道徳で… 校長 遠藤和英

それぞれの教員が自分の専門教科を指導する「教科担任制」の中学校と違い、小学校では、一人の教員が自分の担任する学級のほとんどの教科を指導する「学級担任制」を採っています。

学級担任制のメリットは、「担任と児童の結束が強くなる」「子どもの表情や行動の変化を一日の生活、全教科の指導を通して観察することができる」「授業時間を弾力的に運用できる」などが挙げられます。一方、教科担任制のメリットは、「一つの課題に対しより深い指導ができる」「教科の中で統一した指導ができる」「一人の子どもに多くの眼で指導にあたることができる」などです。小学校段階では学級担任制の方が適しているかもしれませんが、教科担任制には、学級担任制にはないメリットもあるのです。

中学校のように、一つの学級の授業を複数の教員で担当し、複数の眼で子どもたちの成長を育んでいくことは、小学校でも大切です。学年の各学級で指導の統一をより図ることもできます。高学年になるに従い、教科の専門性も高まることから、その教科の指導を得意とする教員から学ぶことは、子どもにとっても有意義なはずです。また、教員側から考えても、それぞれの学級で同じ教科を教えることは、授業準備等の軽減にもつながります。

このように、よいことはたくさんあります。しかし、実際に教科担任制を採用しようと考えても、小学校と中学校では教員の配当数に違いがあり、小学校ではすべての教科で教科担任制を導入することは、物理的に不可能です。（ちなみに今年度の高志小学校の学級数で考えると、日本中どこにある学校でも、小学校だと26人、中学校だと36人の教員が配当されることに決まっています。）

そこで高志小では、教科担任制にすることはできなくても、同じ学年を組んでいる先生たちが、他の学級の一部の教科だけでも担当する方式を導入できないかと考えています。

さて、そのための試行というわけではありませんが、11月は、道徳の授業を各学年の担任が交代で担当しています。1組は1週目A先生、2週目B先生、3週目C先生という具合です。担任側から見ると、A先生は、同じ指導内容の授業を各学級で1回ずつ行うことになります。先日参観した授業では、いつも以上に真剣に先生の話の聞いたり、言われたことについて深く考えたりする子どもの姿が見られました。また、1回目の授業の経験を生かし、2回目では子どもたちがより深く考えるよう授業展開を工夫する教師の姿も見られました。11月中は、来週も同様の形式で授業を行う予定です。どんな姿が見られるか、期待しています。また、これらの様子を見ながら、どのような形で一部教科担任制を導入するのがよいのか探っていきたいと考えています。

他にも、今から来年度の教育活動について職員間で話し合っています。特に行事については、今までやってきたから来年も…ではなく、何のためにその行事をするのか、子どもにどんな力を付けたいのかを明確にし、その上で、現在の子どもの様子、感染症のこと、授業内容、授業日数・時数…など、様々なことを考慮しながら検討を進めていきます。

高志小学校ABCD

A: 当たり前のことを

B: ばかりにしないで

C: ちゃんとできる人が

D: できる人(すごい人)